

【高速信号処理応用技術学会 2016 年研究会の報告】

2016 年 8 月 9 日（火）に高速信号処理応用技術学会研究会が名古屋市の愛知工業大学 本山キャンパスにて開催されましたのでご報告致します。今回におきましても、開催地の交通の利便性（名古屋駅から地下鉄で 20 分程度）の助けもあり、多数の方々にご出席をいただき、主催者一同、まずは、厚くお礼申し上げます。発表件数は 14 件となり、例年に比較して少し論文数は少ないと感じましたが、その内容は＜通信・画像処理・教育＞、＜医療・制御＞、＜電力変換・電装＞とバラエティに富む多様な分野に渡っており、信号処理技術を基軸として分野横断的な科学技術の融合をめざす中身の濃い発表でした。また、DSP 技研 曾禰元隆先生より論文作成指導のご経験録を 1 時間にわたる講演をしていただき、大学及び企業における論文や報告書の作成への貴重な指針を感銘深く拝聴することができました。

今回の講演会におきましても、これまで同様内容の濃い発表講演会及び質疑応答の場となりました。さらに、本研究会の特色として、投稿原稿の頁数 1～8 頁と論文の性格に伴って頁数を選ぶことができ、発表時間も 1～4 頁では 15 分とし、6 頁以上では 30 分として研究内容を十分に議論できる時間を設けています。今回の発表総数 14 件の内、6 頁以上の発表が 3 件であり、今後、本学会の論文への投稿を是非期待したいところです。

セッションおよび発表内容は下記の通りです。

- ・ セッション 1 <通信・画像処理・教育> 発表件数：5 件 内容：LED による可視化通信、画像認識応用、信号処理教育実験手法、論文作成指導について
- ・ セッション 2 <医療・制御> 発表件数：4 件 内容：教育支援ロボット、信頼性、位置決め制御など
- ・ セッション 3 <電力変換・電装> 発表件数：5 件 内容：シミュレーションモデルの構築、AC/DC コンバータ制御、医療用送電コイルの解析、非接触電力電装、非接触電力電装の電気的特性解析など

今回の優秀発表賞には論文題目「膝関節アンドロイドモデルへの膝蓋骨の実装による教育支援ロボットの開発」著者：武井 翔、山内大地、森田良文、佐藤徳孝（名古屋工業大学）を発表者された武井 翔氏でした。おめでとうございます。

研究会終了後、同会場で本学会の第 18 回総会が開催され、2015 年度事業・決算報告、2016 年度事業計画・予算案などが審議、承認されました。総会終了後、同キャンパス内の別室に場所を移して懇親会が開催されま

した。研究会と共に懇親会は重要な情報交換の場であり、大学研究者、企業技術者および学生を含め、活発な意見交換が行われました。

2017 年度の研究会は、高知地区にて開催の順序ですが、開催場所担当校の竹田（記）がこの 4 月に高知から東広島の近畿大学工学部に移動しましたので、こちらでの開催になるか或いは静岡も含めた東海地区あたりになるか年内には確定したいと思っております。開催場所の如何に関わらず、皆様からの多数の論文投稿および参加を期待しております。

さて、本学会は設立から早今年で 19 年を迎えます。発足当時と高速信号処理技術を取り巻く技術および社会情勢も大きく変化してきています。最近では、画像認識、信号処理、機器やシステムの制御などのアプリケーション技術が中心になってきており、高速信号処理技術を如何にシステムに応用し、その技術を用いてシステムをどう構築或いは改善できるかが重要な課題になってきています。一方、本学会の正会員ならびに法人会員の会員数が徐々に減少傾向にあり、本学会の方向性が問われているように推察いたします。技術動向の変化が激しい中、会員の皆様の本学会へのご要望、ご意見を伺い、高速信号処理技術の新たな応用分野を視野に入れて、会員の皆様にとって本学会をより魅力ある学会へと発展および活性化することが使命と強く感じております。今後、会員の皆様に魅力ある企画および情報を提供して、新たな会員を増やし、充実した学会活動を目指したいと存じます。

また、執行部におきましても副会長職を増やし学会運営をさらに強固なものにしていく準備が進行しており、皆様のご期待に沿えるよう執行部はより一層結束をかためますのでご協力のほどなにとぞよろしくお願いいたします。

以上にて、2016 年研究会報告とさせていただきます。

会長 竹田史章（近畿大学工学部）



左：武井氏 右：竹田会長



受賞した武井氏